

Abstract

AROMA RESEARCH No.71(Vol.18 No.3)

成熟過程におけるカンキツ4種の果皮中揮発性成分組成

浜部直哉・國賀 武・根角博久・野田勝二

<要旨>GC-MSを用いて成熟過程におけるカンキツ4種の果皮中揮発性成分を同定した。供試カンキツ種には、ウンシュウミカン‘興津早生’及び、わが国の主要な香酸カンキツであるユズ、レモン‘リスボン’、ダイダイを用いた。供試した4種すべてで、成熟過程における果皮中揮発性成分の変化がみられ、‘興津早生’、ユズ、ダイダイでは、モノテルペン炭化水素の組成割合が増加し、セスキテルペン炭化水素及びアルコールが減少した。モノテルペン炭化水素の増加と、アルコールの減少の主な要因は、それぞれ limonene の増加と linalool の減少であった。採取時期が異なる果実の揮発性成分組成割合についてクラスター分析を行った結果、成熟の過程で‘興津早生’は2段階に、ユズ及びダイダイは3段階に組成割合が変化していることが示された。

<キーワード>ダイダイ、GC-MS、レモン、ウンシュウミカン、ユズ